

2026 両国祭 提言

生物多様性を尊ぶ心が平和を招く!!

生物多様性の保全は、気候変動対策と一体的に取り組むべき基本的な課題です。また、それは全ての生態系の保全と共通するものです。しかも、地球規模で皆が一致して努力すれば出来ることですし、自ずと平和を招くことに通じていると思います。

人類を含む動物、植物、魚類、昆虫、微生物などの全ての多様な生物は、孤立しては存在出来ません。一定の環境の中で直接的、間接的に相互に補完し合い、更に、水、空気、土などの非生物から最も基本的な恩恵を受けるなどして、生態系の一部として生きています。更に、ひとつの生態系は、共有する水や空気などを通じてなど、他の生態系と複雑に影響しあいながら、時として重なり合いながら連携し、それは地球規模にまで及んでいます。

生物が地球上に現れて以来、過去 5 回の大量絶滅の時期があり、その都度恐竜の死滅などのように多くの種が絶滅したとされています。そして、それぞれの原因は火山活動や小惑星の飛来・衝突などの自然現象だったと言われています。現在、それに加え、6 回目の大量絶滅が進行中と言われていて、今回は我々人類の存在と活動が原因とみなされていることは強く認識し、同時にその進行を遅らせ、止めることに全力を尽くさなければなりません。

国際自然保護連合（International Union for Conservation of Natural Resources－IUCN）によれば、現在、地球上には2,121,262 種の野生生物が存在していて、同連合はそれらの内 175,909 種を評価し、49,505 もの種が最も絶滅の恐れが高いと今年 7 月にレッドリスト（Red list of Threatened Species）で公表しました。確かに大量絶滅が進行中なのです。

全ての多様な生物は、生態系の一員としてでしか存在できません。その属している生態系を保全するだけでなく、周辺の生態系も同様に保全しなければならないということです。言い換えれば、ひとつの生態系を傷つけたり破壊するということは、それを行う当事者や本人が属している生態系に直接的、間接的に悪影響として跳ね返ってくることにはほかならず、それは既に顕在化し、本来してはならない、あってはならないことです。

生物多様性の地球規模での保全を目指しましょう！

淡交会環境委員会